



佐仁っ子



ツマベニチョウの蛹化

佐仁小学校キャッチフレーズ「蝶と太鼓と読書の佐仁小」 令和3年11月26日発行

※ この学校だよりは、『佐仁小学校ホームページ』より発信中です。どうぞ御覧ください。



オーレ週間IN佐仁小を終えて～ありがっさまいようた～ 【地域が育む「かごしまの教育」県民週間取組】

校長 上村 江里香

朝晩は、少し肌寒く感じるようになり、晩秋を感じさせるこの頃です。先日の地域が育む「かごしまの教育」県民週間オーレ週間IN佐仁小の際には、授業参観や親子給食等、ご多用の中お越しいただき、本当にありがとうございました。また、お年寄り宅訪問では、子どもたちを温かく迎え入心温まる気遣いまでしてくださり、誠にありがっさまいようた。子どもれてたちとの会話などいかがだったでしょうか。さらに、老人クラブとの交流でも、佐仁の宝である高齢者から子どもたちは、多くのことを学び、交流を深めることができました。

佐仁小学校では、朝の放送で『佐仁小学校のみなさん、スカマ、ウガミンショウラー フーヤ、〇月〇日〇曜日ダリョッカー フウダカ ゲンキシ キバリョロー』の放送から学校の1日がスタートします。給食の始まりは、『いただきようろう』、終わりには『まかありようた』と言っています。これは、「シマグチ」の時間にご指導くださっている安田重照さんや南正和さんのおかげです。学習発表会では、5・6年生が方言劇を披露できるまでになりました。また、本年度からシマ唄教室も再開されました。竹田智子さん、奥道子さん、安田絹枝さんのご指導のもと、朝花節を練習中です。今年度は新型コロナウィルス感染症の影響で学習発表会で発表することはできませんでしたが、来年度は発表できるように頑張っています。

このように佐仁校区には、子どもたちを地域の宝として、地域の伝統文化を継承していこうとする機運があります。子どもたちも地域の方々と多く交流することで地域のよさを体感し、シマを愛し佐仁を誇れる児童の育成につながっていくと思います。

今後とも保護者をはじめ校区の方々、見守り、声をかけてくださることで、子どもたちは、自信とやる気がみなぎります。今後とも学校の教育活動にご理解・ご協力をよろしくお願いします。



佐仁っ子の受賞記録

【鹿児島県児童生徒作文コンクール】

鹿児島県審査会 特選

2年 〇〇〇〇さん

「きみのことが大すき」



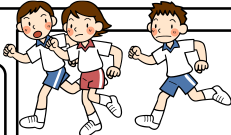
今月のスマイルさん



今月のとじ込み文書

今月のとじ込み文書は、次の4通です。御確認ください。

- ① 校内持久走大会案内
- ② 人権同和教育講演会案内
- ③ 校区活性化委員会案内（委員のみ）
- ④ 校区青少年育成協議会案内（委員のみ）



12月の行事予定



- 1日(水) 校内人権週間(～12日)
奄美群島日本復帰記念月間
- 3日(金) 校内持久走大会⑤(13:50～), 学級PTA
(15:05～), 家庭教育学級(16:00～)
- 8日(水) おすすめの本紹介バトル(1日目:朝の活動)
笠利中学校入学説明会(15:10～)
- 9日(木) クラブ活動⑥
- 10日(金) 清掃強調週間(～20日), 持久走大会予備日
- 11日(土) 土曜授業, 奄美群島日本復帰の話, 人権教室②,
佐仁分園お楽しみ会
- 12日(日) 親子清掃活動(7:00～佐仁海岸)
- 14日(火) おすすめの本紹介バトル(2日目:朝の活動)
- 15日(水) 第2回校区青少年育成協議会(18:30～)
第2回校区活性化委員会(19:00～)
- 17日(金) ALT訪問②～④
- 23日(木) 子供と一緒に読書の日, 奄美子供読書・新聞の日
- 24日(金) 終業式(給食があります), 集団下校
校区愛のパトロール
- 27日(月) 奄美群島日本復帰の日の集い(67周年)
冬休み(～10日), 校区愛のパトロール



御協力ありがとうございました～特設授業参観・親子給食～

11月1日(月)に特設授業参観と親子給食を行いました。保護者のみなさんや地域の方がいらっしゃるということで、いつもに増して表情が明るい子供たち。4時間目の授業が始まり、保護者のみなさんや地域のみなさんを見た瞬間、その表情は更に輝きを増しました。みなさんの参観が、子供たちの意欲を更に引き出すのだなと実感しました。また、家庭ごとに分散して行った親子給食では、少し照れつつも嬉しそうな子供たちと、小学校時代を思い出しながら懐かしそうに箸を運ぶ保護者のみなさんの姿が印象的でした。また、栄養教諭の吉留先生による食育講話も大変参考になりました。

御多用の中に来校し、笑顔と意欲を引き出してくださったみなさん、本当にありがとうございました。これからも、授業参観日はもちろんのこと、それ以外の日でも大歓迎です。積極的に学校にお越しください。そして、子供たちの笑顔と学ぶ意欲を引き出してください。どうぞよろしくお願いいたします。



【特設授業参観の様子～5・6年総合～】



【親子給食の様子】



【吉留先生の食育講話】



これからも長生きしんしょれ～お年寄り宅訪問～

11月2日(火)にお年寄り宅訪問を行いました。「キョロー」と元気にあいさつをして、心を込めて手紙を読んだり、キンセンカの苗をプレゼントしたり、「ワンや〇〇の孫だリョン」と会話を楽しんだりしました。手紙やキンセンカのプレゼントを喜んでくださるおじ・お婆の姿や、日頃の頑張りを褒めてもらって満足気な子供たちの姿。ふれあいを通して、情操を豊かに育てていく佐仁っ子たちを見ながら、佐仁校区の素晴らしさを実感することでした。訪問終了後、1年生の〇〇〇〇さんは「初めてのお年寄り宅訪問だったのでチームのみんなにいろいろなことを教えてもらったけれど、来年は新しい1年生が来るので、もし同じチームになったら、今度はわたしが分からないところを教えてあげたいです」と感想や来年度に向けた決意を書き綴りました。この素晴らしい行事を、いつまでも引き継いでほしいものです。



最後になりますが、佐仁っ子たちのために、時間をつくって温かく迎え入れてくださった方々や、引率を快く引き受け、学びを支えてくださった宮崎行弘さん、南豊志さん、竹田智子さん、奥道子さんに心から感謝いたします。本当にありがとうございました。



今回も白熱しました～老人クラブとの交流学習～

11月16日(火)に老人クラブとの交流学習を行いました。今回の活動は、方言かるた大会と昔遊び体験。前半の方言かるた大会では、おじ・お婆に分があると思われましたが、佐仁のシマグチとは違うため、とても白熱した勝負となりました。14枚もの札をとることができた3年生の〇〇〇〇さんは、「かるたは方言で書いてあったので難しかったけれど、おじ・お婆が教えてくれたので良かったです。」と嬉しそうに感想を話しました。また、後半の昔遊びでは、おはじき遊びとめんこ遊びを体験しました。おはじき遊びでは、ここぞという場面で必ず起こる「地震？」に大盛り上がり。また、めんこ遊びでは、中尾利光さんの百発百中のテクニックに、子供たちは驚きの声をあげていました。2年生の〇〇〇〇さんは、「めんこは難しかったけれど、おはじき遊びでは、いいところで地震が起こっておもしろかったです。」と笑顔で振り返りました。「難しい」と言いながら、満足げな笑顔があふれていたのは、優しく教えてくださった、おじ・お婆のおかげです。みんなの笑顔が輝く楽しいひと時をありがとうございました。



【白熱した方言かるた大会】



一人一人が輝いた学習発表会

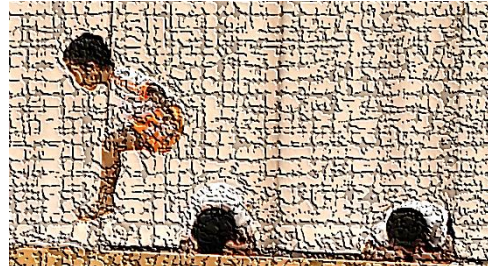
11月13日(土)に、学習発表会を行いました。1・2年生による、かわいらしくも堂々とした「はじめの言葉を皮切りに、勇壮な佐仁太鼓、佐仁分園児によるかわいらしいまねっこ遊びやダンス、学びの成果発表など、一人一人が精一杯発表しました。たくさんの校区の方々を前に緊張しながらも、これまでの練習の成果を発揮できた発表会を振り返り、3年生の〇〇〇〇さんと〇〇〇〇さんは、それぞれ「3年生の発表のダンスが上手にできて、『お客さんに格好いいところを見せる』という目標を達成できました。他の学級の発表もとても上手でした。」「佐仁太鼓は、いつもよりいいリズムでたたきました。また、各学級の発表も一日の様子やシマグチの劇が面白かったので、とてもいい学習発表会だったと思います。」と感想を語りました。まさに一人一人が輝いた学習発表会になりました。



【1・2年生はじめの言葉】



【勇壮な佐仁太鼓】



【佐仁分園児の技披露】



【1・2年生 学びの成果発表】



【3年生 学びの成果発表】



【5・6年生のシマグチ劇】



大人数の学び合いが良い刺激に～合同修学旅行・合同遠足～

笠利地区の複式5校では、定期的に合同学習を行っています。その一環として、17日(水)から18日(木)に鹿児島市で合同修学旅行、19日(金)に龍郷町で合同遠足が行われました。

修学旅行では、5・6年生が、鹿児島市内で1泊2日の見学を行いました。空港では「大丈夫かなあ。落ちないかなあ。」という不安げな声が聞かれましたが、鹿児島市に着くと、高い建物が立ち並ぶ街並みや路面電車に歓声をあげながら、見学を満喫していました。また、ホテルには懐かしい先生方が来訪。再開を喜び合っていました。

遠足では、1年生から4年生が、龍郷町の大島紬村に集まって、奄美の伝統工芸について学び合いました。また、りゅうゆう館で行った合同レクリエーションでは、初対面に近い他校の子供たちと声を掛け合ったり、ボールを譲り合ったりする姿が見られました。



【鹿児島市にて(5・6年生)】



【りゅうゆう館にて(合同遠足：1～3年生)】

【遠足の各学校代表感想発表より】

今日の遠足では、レクリエーションが特に楽しかったです。なぜなら、どの学校の友達の顔も楽しそうに笑っていたからです。

(3年 〇〇〇〇さん)

- 私が一番楽しかったのは照国神社です。買ったお守りを大切にしたいと思います。また、眠る前に屋仁小の友達に「お休み。明日また会おうね。」と言えました。友だちになって自分から言えたので嬉しかったです。(5年 〇〇〇〇さん)
- 今日は水族館でイルカのショーを見ました。ジャンプ力がすごかったです。どうやってとんでいるのかなあと思いました。また、維新ふるさと館のロボットの劇は、どうやって動いているのか、とても気になりました。(5年 〇〇〇〇さん)
- 初めての飛行機だったけど、とても楽しかったです。また、みんなと活動できたので、とても楽しい1日目でした。一番怖かったのは、アミュランの観覧車でした。もう絶対に乗りたくありません。(6年 〇〇〇〇さん)



今月の名文～ネリヤカナや創作童話コンクール出品作品～

たんけん好きのあなたへ

三年〇〇〇〇

「やっと来た来た夏休み。みんな何をしているのかな。久しぶりに会いたいな。そうだ、みんなを探検に誘おう。」そう言うつ、アマミノクロウサギのクー太郎は手紙を書きました。そして、予備の一通を入れた六人分の手紙を郵便バッグにつめこむと、配達用の自転車に飛び乗りました。でも、うっかり屋のクー太郎は、バッグをしめ忘れていたのです。走る自転車から、一通の手紙がひらりと落ちていきました。「誰に出した手紙だろう、『たんけん好きのあなたへ』って」道端で白い封筒を拾った私は、首をかしげました。「私宛てじゃないよね」と思いましたが、探検が大好きな私は、中身がたまらなく気になりました。そしてとうとう、封筒から手紙を取り出して、読み始めました。「奄美大島自然探検のお知らせ 八月八日正午に、島で一番大きなガジュマルの木の下に集合。クー太郎より」「クー太郎って、誰」「誰とどこを探検するの」「何だかわくわくしてきました。

八月八日、集合時刻の三十分前。私は集合場所に向かいました。「クー太郎ってどんな男の子だろう」と考えると、自然と急ぎ足になりました。

集合場所に着きました。ガジュマルの木の下には、誰もいません。かわりに六人の動物達（注）が、私をじっと見つめていました。「なぜ君はここに来たの。グルルッ。」アマミイシカワガエル（注）のイシ太郎が、しわがれた声で尋ねてきました。「手紙を拾って読んでみたら、ここに集合って書かれてあったから来たんだよ。」と私が答えると、クー太郎が高い声で、「キユイッ。僕が落とした手紙を拾ったのは、君だったんだね。」と叫びました。すると、ウミヘビのヘー太郎が、長いしっぽでつつこみを入れながら、

「クー太郎はおうちよこちよいなんだから。」と笑いました。「まあまあ、友達も増えたことだし、ウミガメのカメ太郎に海を案内してもらおうよ。サンゴ礁の海ヘレッツ・ゴー。」ムラサキオカヤドカリのカリ太郎が、はさみをふり上げると、六人もつられて、手やしっぱをふり上げた。飛び跳ねたりしました。サンゴ礁の海を進むと、クマノミ達に出会いました。何かささやき合っています。「明日、パーティーがあるから、みんな参加してね。」イソギンチャクの舞台上で、ダンスパーティーをするのでしようか。丸い目をもっとまん丸にして、みんな楽しそうです。その時、辺りが急に暗くなりました。七人が見上げると、大きなザトウクジラが、真上をゆつくりと泳いでいました。「キヤ、ザトくん、すこい。」私が喜ぶと、ザトくんは、にっと笑って、大きくジャンプしました。ザッパーンと大きな音がして、白い泡つぶが、天井に勢いよく上がっていました。「すこい、すこい。」拍手をする私に、大きなひれを振りながらザトくんは帰っていました。「今度はぼくらの山を案内するよ。」と金作原に住んでいるカリ太郎が言いました。「金作原って、世界自然遺産だよね。」ガメ太郎とハー太郎と私は、大喜び。みんなで金作原に向かいました。

ヒカゲヘゴの木の下で、カリ太郎が案内を始めようとしたちょうどその時、イシ太郎の携帯電話が鳴りました。「イシ太郎先生、患者さんが急変しました。すぐに戻って来てください。」イシ太郎の病院からでした。「イシ太郎、ほくの背中に乗りなよ。」島一番の長距離選手ハブ太郎は、イシ太郎を乗せると、もう見えなくなりました。

五人で金作原を一周すると、山の頂上が夕焼け色に染まっていました。そろそろ夕日が沈む時刻です。その時、「おうい、佐仁の夕日を見に行こうよ。おがみ山でイシ太郎が待っているよ。」ハブ太郎です。手術を成功させたイシ太郎に頼まれて、迎えに来たのです。「ほくの背中に、しっかりとつかまってるね。」と言いつつ終わらない内に、私達は佐仁のおがみ山に着きました。ちょうど、海の向こうに大きな夕日が沈もつとしています。「新しい友達ができ、ぼく達は嬉しいよ。心に残る思い出ができたね。またみんなで奄美を探検しようね。」夕日を浴びたク太郎の顔が、まっ白い天井に変わりました。「なんだ、夢か」

「主年後の夏休み、私の家に、不思議な宛名の白い封筒が届きました。たんけん好きのあなたへ」



8時以降はノーマディアで

家庭学習・生活リズム週間が始まりましたが、家庭での子供たちの様子はいかがでしょうか。今年度も笠利中学校区一斉に「午後8時以降のノーメディア」に取り組んでいます。子供たちに育むべき力として「コミュニケーション能力」が重視されていますが、一方で、子供のゲーム依存やスマホ依存が社会問題になっています。今後とも、8時以降のノーメディアに家族でチャレンジし、子供の健全育成に努めましょう。

共に学び合いましょう

先日、2月12日(土)に開催される「子育て講演会」の内容に関するアンケートを実施しました。御協力ありがとうございました。集計結果を受けて、次の内容で申請します。正式に決定しましたら改めて御連絡いたします。

演題：ペアレントプログラム～子供へのかかわり方のコツ～

講師：徳田 淳子先生



ツマベニチョウに釘づけ



今の時期、校庭の片隅にあるギョボクの木では、産卵に訪れるツマベニチョウを見ることができます。ツマベニチョウにとっての秋は、「命をつなぐ秋」ですが、佐仁っ子にとっては、その様子を詳しく調べられる「観察の秋」。卵がついているギョボクの葉を取って来ては、飼育観察に励んでいます。緑色の蛇に擬態するユニークな幼虫や、オオゴマダラと違って、頭部と尾部の2点で身体を固定している蛹の姿、そして美しい成虫の姿に子供たちの視線は釘づけです。



【写真左上】
緑色の蛇そっくりの幼虫



【写真右上】
蛹化中の幼虫(2点で支えます)



【写真右下】
美しいツマベニチョウの成虫